

授業づくりシート

平成30年 7月 3日 6限	(1)年(3)組	場所 1 - 3教室	授業者 (北澤 邦俊)
教科(社会科)	単元 日本列島の誕生と縄文文化		研究パートナー (早川 岳久)

以下を簡潔に記入する（手書きでもよい）

しかけ1 視覚化された導入
氷河時代に、日本列島は大陸と陸続きであり、大陸と同じようにマンモスなどの大型の動物がいた。マンモスがどのような動物であったかを生徒につかませるために、2004年10月放映の「世界ふしぎ発見！徹底検証 マンモス復活は夢か？現実か？」を視聴させる。マンモスを復活させる研究の現在の進行状況を伝え、生徒の興味関心を高めたい。
しかけ2 焦点化された課題
日本人がいつ頃どこから来たのか。 今までの学習で、私たちの祖先はアフリカで誕生した新人（ホモ・サピエンス）であることを紹介している。特にホモ・サピエンスはどのルートで来たのか想像させたい。
しかけ3 共有化を伴うグループ・ペア活動
資料を示して、そこからホモ・サピエンスが来たルートを想像させ、自分なりの意見をもたせたい。その意見を隣の生徒同士で発表。その時に理由を必ず説明させる。思っているだけでなく声に出させて、自分の意見を確認させたい。時間があつたなら、教室のテレビ画面に、学級全員の各意見の数を明示する。
しかけ4 継続化を伴う終末
どのルートで来たのかは、結論を授業では出さない。最新の研究が7月8日に放映予定の「NHKスペシャル 人類誕生 第3集 ホモ・サピエンス ついに日本へ」で発表されることを紹介する。見るか見ないかを自分で選択させ、自ら見ることを選択した場合、テレビ番組で勉強ができることを実感させることができる。そして、これからも進んでテレビ番組で勉強していこうという意欲をもたせたい。今回はそんな機会の一つとしたい。

しかけ0 (土台) 必要な支援 (1~4の中で)
教科書の文章は速音読をさせ、その後内容について簡単な質問を行い、穴埋めプリントを完成させていく中で、教科書の文章理解を促進させたい。 速音読に限らず、生徒に身につけさせたい言葉は声に出すことをする。 映像などの資料を多く見させたいため、板書をノートに書き写す時間をほとんどとらず、プリントで学習を進める。

授業者の思い

日々放映されては消えていくテレビ番組やインターネットで見ることができる大量の動画などを、どのように生徒の学習に活かすか、今まで試行錯誤してきた。テレビ番組等の教材化に関する資料は、日々、ブログ「ここでも道草」に蓄積中である。ご意見がいただけたら幸いである。「ここでも道草」で検索すれば、行きつくことができる。 また、近い未来に可能になりそうな、「教室で教師だけがタブレット端末を所持している場合」にできる授業はどのようなものなのかも検討していただきたい。
--